



昭和五年四月廿日

仁科芳雄

法財
人團
理
化
學
研
究
所
東京市本郷區駒込上富士前町卅一番地
電話大塚自三二二一番至三二二六番
七九



YHAL
C39N03

No. 1

昭和十四年四月廿日

東京市本郷區駒込上富士前町卅一番地
財団法人 理化學研究所

仁科芳雄

湯川秀樹君

拜啓、先日御手紙難有拜見シマシタ

今日學研ノ物理部會カアリマシタ、其席デ先生
カ今度ノ招待ノ話ヲシテ學研カウ何等カソノ實現
ヲ援助スル方法ハナイカト 認リマシタ、長岡先生ソ
ノ他ノ方々カウ意見カ出マシタカ結局次ノ二ツノ一
カ決セラレマシタ

- 一、湯川君ヲ學研ノ本邦委員トスルコト
 - 二、湯川君ノソルウエイ舎議ノ招待ヲ實現スル
- 様ニ學研カ後援スルコト

No. 2

昭和
年
月
日

一、ハ學研ノ人トシテ置ケハ外國へ派遣ト云フコト
 モ簡單ニナル為デアリニハ只後援ト云フカケ
 テ旅費ヲ出スト云フニハ至ラナイデアリマスガ
 旅費ヲ出ス方法ハ後テ考ヘルト云フニナリマシタ
 ソノ方法モ色々法ハ出マシタガ若シ物理ノ方ノ會派
 カコペンハーゲンテ開カレバソノ方ノ旅費ハ學研ノ
 方ニ豫算ヲ取ッテアルカラソレヲ兼テ行ケル最モ
 簡單デアリ、然レソノ會が開カレヌ場合ハソノ金ハ
 今年度内ハ使ハレヌト云フコトデアリマス、次ノ方
 法トシテ考ヘラレルノハ京都大學ニ教授ノ外出
 旅費ハ豫算ニ取ッテアル故コレヲ振り向ケレバ
 好イテハナイカト云フ一ガ云ハレマシタガ出席セラレタ
 木村サンカラソレハ申合セガアリ順序ハ決定シテ居



No. 3

昭和
年
月
日

ルノテ困難ト云フ活テシタ、然レコレハ結局京都大学
ノ教授連ガ此招待ヲ如何ニ見ルカト云フ一テ定マル
問題ト思ヒマス、東大ノ寺澤サンナトノ活テハ
決シテ不可能テハナクヤリ方ニ依テハ出来ルト云フ
一テスガソレハ前記ノ通り京都大学ノ態度如何
何テ決定スルト思ヒマス、木村サンハ頼リニ困難
ト云フテ居ラレマシタ、尚此問題ニツイテ学研
カラ京大ニ対シテ此招待ヲ実現セシメルヤウニ努
カスルトヲ希望スルト云フコトヲ申シ込テハ如何
ト云フ議モ出マシタガ、木村サンカラコレハ湯川君ノ
辞令ガ正式ニ出タ後ニシテ世員ヒ度イト云フ一テシタ、
尚今夏学研モ擴張スルトニナリ費部員ヲ増加
スルコトニナリマシタ、物理部員モ十名ノ増加トナリ

No. 4

昭和
年
月
日

投票テ貴兄モ部員トナルコトニナリマシタ。然レコレガ
 決定スルハ六月トノコトテ兎モ角取り敢ヘズ前
 記ノ通り「本邦委員」(此意味ハ小生モヨリ知りマセン)
 トシタ次オテス。
 又今年ノ豫算~~ヲ~~テ學研モ擴張スルコトナリ
 *今近ハ「ユニオン」ニ屬スル會派ニタケ人ヲ派シテ居
 タノヲ今度ハソレ以外ノモノニモ派スル様ニスルト云フ
 一ニスルト云フノテスカラソノ方テ行ケルカモ知レヌカ
 然レコレノ決定ハヤハリ法制上ノ問題ガアツテ六月
 以後トナルデアラウト云フコトテス。從ッテコレモ未定ノ
 活テス、
 以上ノ次オテ何レモ確定シタ旅費ノ出所ハナイワケ
 テスガ返事ヲ早ク出ス必要ガアル譯テス、ソレニフ

No. 5

昭和
年
月
日

イテ長岡先生ノ御話デハ「今確定スルコトが出来スカ
ラ確定次第電報ヲ知ラセル」ト云フ返事ヲ出シタ
ラ好イカラウト云ハレマシタ。(以上テ學研ノ話ハ終リ)。
小生ノ考ヘテハ「招待ヲ感謝スル、渡欧スルニハ経
済上政府ノ許可並ニ援助ヲ必要トスル。ソレヲ
容易ナラシムル為ニハ、~~貴國~~日本ノ外務
省~~ハ~~ ^{Selwyn} 舎議ニ自分ヲ派遣スル様ニ
頼ニテ呉レ。許可ガアリ次第電報ヲ知ラセル」
ト云ッテヤツタラ好イカラウト思ヒマス。ソレハ先方
テ大使館ニ依頼スルカ直接外務省ニ云ッテ来ルカ
ソレハ便宜ノヤウニ思ヒマス。

以上要し近 餘ハ後日ニ

毎

No. 6

昭和 年 月 日

二俣

色々話ヲイテ見ルト海外へ持出ス金ハ七万田
 ハ困難ヲウケト云フ話テス。ソウスト 方々ヲ廻ッ
 テ見ルト云フコトハ恐ラク出来ナイノテハナイカト
 思ヒマス、時上仰柄コレモ致シ方ナイテレヨウ
 一、アタタカラ送ッテ下サツタ招待状ノ寫シニ通
 ハ學研ニ送考トシテ寫シヲ取りタイト云ツタノ
 テハ貸シマシタ

一、先日話シマシタ理研カラ出張ト云フコトモ小生一人
 テ考ヘテ居ルコトテス一被所長ニ話シテ見ヤウカト
 思ッテ居マス、ソレニハ理研ノ Scientific Papersニ論文
 ガ二三載ッテ居ル必要ガアルト思ヒマス、先白第都
 テノ話ノモリガ載セシナイテシヨウカ、